

# 大学教授になりたがる次官候補

●政務官の直訴  
首相問責決議が可決された11日の夜、首相を囲む有志議員の会が開かれた。福田康夫首相の激励が目的だったが、実は首相にとって、は極めて不愉快な出来事が起きていた。

首相が会場に到着する前、松浪健太・厚生政務官は「後期高齢者医療制度 与党PT案の問題点」と題するA4判のペーパー2枚を出席者に配った。

「将来世代の負担に歯止めをかけるために制度を導入しながら、今年だけで(負担軽減策で)560億円ものツケを(国民に)負わすのは本末転倒だ」

そこには与党があわてて作った「低所得者の保険料9割軽減」を柱とする見直し案への批判が並んでいた。首相と親しい衛藤征

# 厚労官僚の冬

年金記録漏れ問題に続き、後期高齢者医療制度でも厳しい批判を浴びた厚生労働省の官僚たち。今後は国家プロジェクトと言わなければならない。ところが官僚たちは社会保障



も聖域としない小泉改革の継承と、少子高齢化による必然的な負担増のはざままで方向性がつかめず、漂流している。省内には早めに退職して大学教授になろうという転身願望も広がる。厚労官僚の今を報告する。

士郎衆院議員が回収を求めた。松浪氏は応じたものの、首相にはペーパーを直接、手渡した。首相は無表情に「読んでおきます」と言っただけだった。

松浪氏の直訴に官僚たちは、自分たちの気持ちを代弁してくれ、と喝采を送った。今、省内では大学教

員への転職願望が広がっている。04年以降、大学教員に移った幹部は少なくとも11人。局長手前の審議官クラスにあたる78年入省組は

キャリア組15人のうち、既に5人が大学教授に転じた。将来の次官候補と言われる若手官僚の中にも、「先生の職を探したい」と口にする人が複数いる。

医事評論家の水野肇氏は「かつて大学に行くのは将来的に組織の主力になる人ではなかった。今や、一番優秀なのが教授になりたがる」と憂える。

(以下省略)

## 「弱者の味方」切り捨ての先兵に

### 見直し案に反対 総理に直訴

### ケンタ 通信40号

#### ◆何のための新制度か

「私達は将来世代を裏切っているのではないか…」

後期高齢者医療制度の見直し案が固まりだした5月末から、私は憤懣やるかたない日々を過ごしていた。

新制度導入の目的は、現役世代の負担が1割から2割(平成9年)、3割(同15年)と急激に上昇したことをきっかけに、将来世代の負担増に歯止めをかけることが第一であり、第二に国民健康保険の破綻を食い止めることだったはず。それが逆に見直し案では、今年だけで560億円ものツケを子供や孫に残すとは!

見直し案は低所得者に配慮しているとはいえ、保険料が下がった人もさらに下げるという内容だ。それは新制度に対する見直しとは別の議論である。

対応策は複雑なうえに、今年度の減免対象者が来年度と異なるなど矛盾点が多く、とても一般には理解されるものではない。しかも一部のベテラン議員で構成される与党のプロジェクトチームだけでその案は決められてしまった。

#### ◆反対運動を展開

見直し案の行方が報道される中、私は反対運動を展開した。

【6月9日】舛添大臣に厚生労働省として、与党案に意見することを提案。しかし大臣は官邸主導に任せるとの判断。

【6月10日】官邸で行われた政務官会議で、与党案の問題点を説明。多くの政務官の同意を得る。

【6月11日】自民党の合同会議で問題点を指摘。同日、問題点をまとめたペーパーを総理に提出。

自民党は12日、見直し案を承認したが、その後、民主党は首相問責決議案を理由に衆議院で審議拒否を貫き、自ら参議院で議決した廃止法案を葬り去った。野党の敵失で与党は救われた格好だ。

私は新制度は必要だと考えているが、今回の結末は次世代に大変申し訳ないと思う。

#### 総理に提出したペーパーの要旨

- 【支持率低下につながると思われる要因】
- ①現役世代の窓口負担急増から新制度を導入するのに、逆に見直しでツケを負わすのは本末転倒。
  - ②制度施行2ヶ月で、与党幹部だけで決めた案を出すことは、政府への信頼性を損なう。
  - ③年度途中で対応を変えることは、民主党の廃止法案と同じ矛盾をはらむ。
- 【今すべきこと】
- ①社会保障政策について、短期の課題、中長期の課題を介護、年金、生活保護などと絡めて、工程表を示す
  - ②工程表に従って、与党の国会議員がマスコミにフルオープンで議論する場を設ける。
  - ③その会議には、総理も参加して頂き、本気を国民の皆様に見て頂く。